



「『易経』にはあらゆることのヒントが隠されています」

「歴史上の指導者は易を通して政治の大意を見通していました」

方には法則性があった、それは変わる
ことがない。これが「不易」です。例
えば、季節であれば春から夏、夏から
秋と不変のルール（不易）があります。
でもその春は一年前とは違った、まっ
たく新しい春（変易）なんです。
最後は「易簡」。易が教えていること
はとても易しくて分かりやすく、私た
ちの人生や経営、国のあり方などすべ
てのことに簡単に応用できるといいま
す。

このように「易経」に書かれてある
ことを読み込んでいけば、その法則性
を知ることができずから、占わなく
ても自分の経営や人生のこれからを判
断できるわけです。『易経』が五千年
間にわたり読み継がれてきたのは、そ
ういう法則性が人々に受け入れられた
からではないかと私は考えています。

伊興田 僕も同感です。秦の始皇帝
の焚書坑儒の時、『論語』などの中国古
典はことごとく排斥されたにもかかわ
らず、易の本は残りましたからね。

竹村 あの時、政権を揺るがすこ
とがなく、しかも生活に役立つものと
して『易経』は残されたんですね。

伊興田 その後の時代は政治家や指
導者層の間で易は大変重要視されるよ
うになりました。日本においても平安

時代の三善清行のような陰陽師は易と
関係があるわけだし。

竹村 当時は易といったら呪術的な
要素が色濃くありましたね。

伊興田 それから戦後をみても、他
の本は二東三文なのに、易の本だけは
値が下がらなかつた。それだけ『易経』
は大切にされていたんです。

江戸から明治にかけての易学の大家
で根本通明という人がおられます。僕
はこの先生の本が欲しくて戦後、古本
屋でそれを見つけた。でも価格が高い
んだ。その時分僕は無収入の生活をし
ていたし、なかなか手が出なかつたけ
れども、算段して手に入れた思い出が
あります。

——陰陽が一つにならなくては
万物は発展しない

伊興田 竹村先生の易の話を聞かせ
ていただきながら、いや、なかなかよ
く勉強なさっていて驚いているところ
です。

竹村 ありがとうございます。まだ
まだ修業中の身ですが、そう言ってい
ただけると励みになって嬉しいです。

伊興田 冒頭お話しされたように
『易経』には龍の話が書かれていて、上
に立つ者のあり方を考えるのに大変効
強になります。せっかくの機会ですか